

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会  
460-0006 名古屋市中区葵 1-27-32 カイフビル 7階

# HD ニュース

No.28  
2015.6.15

今後の予定／於：事務局会議室

6月16日(火)18:00～ 相談委員会

6月16日(火)19:00～ 研修会

6月18日(木)18:30～ 木造技術研究会

6月23日(火)14:00～17:00 木造技術研究会臨時講座  
(木造構造計算プログラム導入セミナー)

7月2日(木)19:00～ 三役会

## 建築のラビリンス再探訪 2

副理事長 新野修一

最近友人と建築デザインと構造や環境のエンジニアリングとの関わりを語り合い、楽しい時間をすごすことがあった。彼はアトリエ事務所のナンバー2を務め、様々なプロジェクトに関わった。アトリエ事務所と言っても著名な建築家が主催する中規模の組織事務所である。彼の関わった建築で私が興味を持ったものの一つは北陸の県庁所在地に2008年に建てられたS造2階建ての企業の研究所だ。構造が面白い。3本の柱で三角形を構成し大梁を架けるラーメン構造で3点を支持する。3本の脚で支えるテーブルのような構造を複数組み合わせ、さらに大きなテーブルをつくる。鉄道橋などに用いられる柱脚ピンを採用し、鋳鋼で足元をつくり、先端部を最小230mmと細くしたことが、キノコ型の架構をイメージさせ、自由で広がりを感じさせるラーメン構造を可能にした。この構造の素案は3年前の別件のコンペの折に所長が考案したらしい。構造担当はArup Japanである。知る人も多いと思うが、世界中に拠点を持ち、構造設計を足がかりに設備設計、ファサード、PPMなどの機能を付加しながら成長してきた総合エンジニアリング事務所である。建築設計事務所もここまで来たかと感動したと同時に、こういう能力を備えた設計事務所でありたいものだと思ったものだ。彼との会話は、建築の可能性が日々のアイデアの構築とその蓄積、それを建築に昇華させる能力、具体的に技術的に対応できるチームワークがいかに重要であるかを思い出させてくれた。

私は建築に興味を持ち始めた黎明期から約10年間、すなわち20代後半頃までのとりわけ世の中で輝いて見えた「建築」を思い返す時、その思いを今に繋げてこられなかった自分の非力を嘆く。目指す「建築」

と目の前の「建築」の乖離である。言訳すれば、30代前半で独立し、家で夕飯を食べるのは月に1～2度だった体力と意欲と希望に満ちた時間は、厳しい現実立ち向かうことに費やされ、「建築」を楽しむ余裕がなかったことと「建築」を自分の日常の設計活動で生かしきれなかったというのが正しいだろう。それらが非力につながったと勝手に弁解している私だが、友人は「勉強不足だよ」とどこまで知ってか偉そうに言うのである。昨今のデザインの潮流はArup Japanに見るようにデザインとエンジニアリングの連携にあり、例えばバナキュラーな地域文化のコンテクストを読み込んでそれをデザインに生かしたという従来のデザイン手法より、その意図は解りやすく、直截的で伝わりやすいかもしれない。否、そのように時代を区分するのは正しくなく、後者のデザイン観が王道であり、前者はPCの発展により、デザイン方法の選択が増えたというべきではないかとも言える。友人の勉強不足の指摘は彼も自戒しているのであり、お互い健康に気をつけて、これからこそ思いのままに建築のラビリンスを彷徨しようと合意するのである。彼は「ラーメンは古いね」とも言った。その言葉は正しくないが、一般的な箱型で水平垂直の柱梁からなる建物を考えることしかしない意匠設計者とプログラムのブラックボックスを充分に理解することなくプログラムに従うしかない構造設計者に対する戒めと励ましと理解できるが如何？ラーメンもいろいろ。PCの使い方もいろいろ。自分次第。

昨年12月16日に、(公社)愛知建築士会名古屋中支部主催の「メディアコスモス現場見学会」に参加してきました。当会の会員でもある石井隆司さんが企画され、岐阜市方面に日帰りの見学会です。午前中は「瞑想の森 市営斎場」。午後は「みんなの森 ぎふメディアコスモス」の現場見学でした。どちらの建築も伊東豊雄の設計です。

「瞑想の森 市営斎場」は、各務原市が「静けさと自然に帰る」をコンセプトに、公園墓地と一体で「瞑想の森」を2006年に整備しました。この中心施設であるのが「瞑想の森 市営斎場」です。

これまで私の知っている火葬場の印象とは全く異なり、悲しく重苦しい気持ちにさせるイメージは無く、当日のあいにくの雨に輝く大きく波を打つ形をした真っ白な屋根や、ガラス張りの建物からは、どこか神秘的なたたずまいさえ思わせませす。火葬場の象徴でもある巨大な煙突が無いことも、この印象を一層高め、まるで美術館や博物館かの印象です。別れの間となる火葬炉の前のホールも柔らかな光に包まれ、心を穏やかにして送ることができるように配慮されている印象を持ちました。5基ある火葬炉にも重厚な扉で隠され高い天井と共に広々とした空間です。自由曲面シェル構造の屋根をはじめ構造的にも複雑な建築物で設計や施工時の苦心が伺われました。樋も外部には出さず柱の内部を通してあります。防水にもかなりの技術が必要であったと思いました。

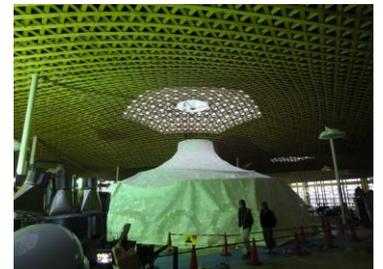
午後は、岐阜市に建築中の「みんなの森 ぎふメディアコスモス」。岐阜市の中心市街地に位置する岐阜大学医学部等跡地に岐阜市が事業展開している「つかさのまち夢プロジェクト」の第一期として、岐阜市立中央図書館を中心とした複合施設です。

岐阜市の担当者と戸田建設の所長さんから説明をしていただきました。こちらの建物も屋根がたいへ

ん特徴的でした。鉄筋コンクリート造と鉄骨造、木造の混構造で、鉄骨の柱の上に、波打つような曲面の木造架構が載る形となっています。厚さ約20mmの岐阜県産ヒノキの板（無垢材）を曲げ、3方向に層状に重ねてビス留めしています。

また、延床面積が3,000㎡を超える建物ですから、主要構造部は耐火構造であることが求められます。特別な木材を使わず屋根架構を木造にするために、耐火性能検証法によって国土交通大臣の認定を取得したとのことでした。

この建物には、館内の空気に対流を起こし自然換気を行い、消費エネルギーを1/2を目指す「グローブ」なるものが施工されていました（伊東氏オリジナルのシステム?）。コンピュータの解析によると自然換気量が約30%増加するそうで、2階の中心部にも、上部から自然光を取り入れることにより、バランスの良い自然採光計画を実現しています。この地域の豊富な資源である、地下水と太陽熱を利用した高効率な熱源システムと組み合わせることでエネルギー効率を高めることに貢献しています。



当会でも、研修旅行は行っていますが、日帰りでの事業はありませんでした。個人では難しい見学先でも、会からの要請であれば可能になることもあると思います。また、建築関係者として特別な解説や案内をしていただくことも可能だと思います。ご希望や見学先の情報がありましたら、ぜひとも事務局までご連絡ください。今後とも「住まいのホームドクター/設計者の会」木造技術研究会を有意義な会にしたいと思います。

#### ■マンション大規模修繕研究会 5/19 18:00~19:00

「サンパーク津島」長期修繕計画について。

『マンションの建て替えか修繕かを判断するためのマニュアル』の読み合わせ。

#### ■技術研修会(第139回) 5/19 19:00~21:00

「木造住宅における、耐火・準耐火について」

講師：(株)吉野石膏 杉崎和人氏

#### ■木造技術研究会 5/21 18:30~20:30

『検査員が明かす建築確認の誤解 申請が「すんなり通る」100のツボ』をテキスト。

